LC りぽーと
50
2023年3月

〒663-8558　西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学 言語文化研究所
ilc@mukogawa-u.ac.jp
Tel：0798-45-3536
Fax：0798-45-3574

関西の どう変わる？ 食べ物の言葉

おもに関西で使われる「食べ物に関する言葉」に関して、2008 年と 2021 年の調査結果を比較します。視点は、以下で取り上げる言葉は、すでに消えてしまっているのか、まだ使われているのか、あるいは、今まさに消えそうになっているのか、また、残っている言葉は今後も残るのかというものです。関西の食べ物に関する言葉が、今後どのように変わっていくのかを予想してみます。なお、紙面の都合上、調査結果の一部についての報告となります。

【調査概要】

〔2008 年調査の概要〕質問用紙によるアンケート調査

・調査対象者：LC 倶楽部会員※156 名（20 代・30 代：30 名、40 代・50 代：66 名、60 代以上：60 名）、大学生：123 名。

（※言語文化研究所の活動に興味をもってくださる方々。会員数約 130 名）

・質 問 内 容：LC 倶楽部会員―「子供のころに使っていた言葉は何か」
「現在使っている言葉は何か」
大　学　生―「現在、おもに使う言葉は何か」

〔2021 年調査の概要〕グーグルフォームを利用したアンケート調査

・調査対象者：LC 倶楽部会員 19 名（20 代 1 名、40 代・50 代 7 名、60 代以上：11 名）、大学生：17 名

・質 問 内 容：LC 倶楽部会員―「子供のころに使っていた言葉は何か」
「現在使っている言葉は何か」
大　学　生―「現在、使っている言葉をすべて選ぶ」

【調査報告の視点】

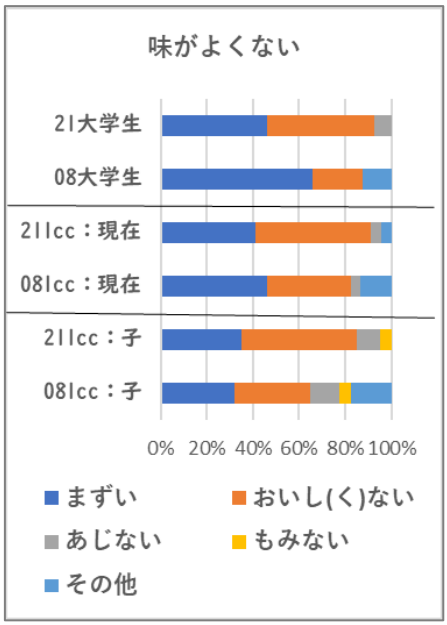
・関西方言から標準語に置き換わっている言葉／置き換わりつつある言葉はあるか。
・呼び名が複数ある場合、どの語形が残りそうか。
・2008 年から 2021 年の 13 年間で変化があるか。

【図について】以下、図の調査対象者は次のように省略表記をしている。

「21 大学生」＝2021 年の調査。大学生が 2021 年現在使用している言葉。
「08 大学生」＝2008 年の調査。大学生が 2008 年現在使用している言葉。
「21lcc:現在」＝2021 年の調査。LC 倶楽部会員が 2021 年現在使用している言葉。
「08lcc:現在」＝2008 年の調査。LC 倶楽部会員が 2008 年現在使用している言葉。
「21lcc:子」＝2021 年の調査。LC 倶楽部会員子ども時代に使用していた言葉。
「08lcc:子」＝2008 年の調査。LC 倶楽部会員が子ども時代に使用していた言葉。

■「もみない」「あじない」から「まずい」「おいし（く）ない」へ

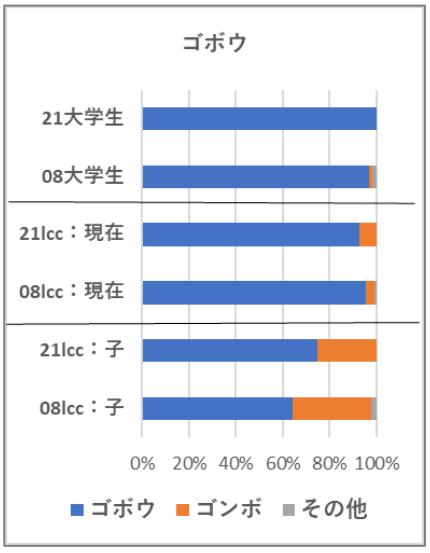
「味がよくない」ことをどのように言うかというものである。「もみない」は Icc が子どものころに使用していたのみで、現在の使用は０である。大学生も当然０だ。『大阪ことば辞典』では「アジナイに比べて使用者は少ない。老年層の使用語。」とある。ただし、本書の刊行が 1995 年であることを考慮すると、もはや老年層でも使用する人がほとんどいないと考えるのが自然だろう。「あじない」は関西で使われる言葉で、「08 大学生」を除いて少数の使用者が確認される。ただし、標準語形の「まずい」「おいし（く）ない」の方が圧倒的に多く、今後、「あじない」がどれくらい使われ、そして残るかは疑問だ。関西方言の「もみない」「あじない」が、標準語形の「まずい」「おいし（く）ない」に取って代わられていることがうかがえる。



08 と 21 の比較 Icc・大学生ともに「おいし（く）ない」の使用が増加してきている。

■「ゴンボ」から「ゴボウ」へ

「ゴンボ」は「08Icc：子」で約 40%、「21 Icc：子」で 25%が使用しているが、大人になってからは、ほぼ「ゴボウ」になっている。大阪訛りがなくなり、標準語形に変わってきていることが分かる。『大阪ことば辞典』では「大阪ではゴボウというよりはゴンボというのが一般的で、ゴボウというと、庶民的ではない感じがする。」とある。この記述も 28 年前であることを考えると、「ゴンボ」を使っていた人たちが庶民的でなくなったのではもちろんなく、四半世紀以上の時間の経過の中で、もはや「ゴンボ」が庶民的だというイメージそのものがなくなったと考えるべきだろう。



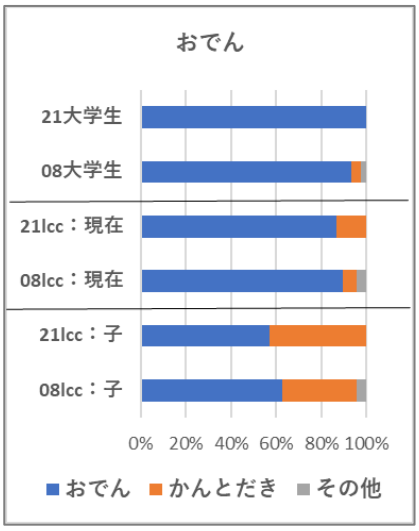
08 と 21 の比較 大学生の「ゴンボ」使用は、08 年ではまだ少数あったが、21 年には０となり「ゴボウ」化が進んだ。

■「かんとだき」から「おでん」へ

「かんと（う）だき」は関東から伝わってきた煮込んだ物という意味で、関西では「煮る」を「炊く」というのからきている。これも Icc は 08 年・21 年ともに、子どものころは「か

んとうだき」が約 40%であったものが、大人になると「おでん」が 90%前後まで増えている。Google で「“かんとだき”」を完全一致検索すると約 21,000 件がヒットする（2023 年 4 月）。ただし、実際には「おでんを関西では関東炊きという」ことを説明したサイトが上位にランクインするなど、実際の使用が反映されたものとは言い難い。現実には「かんとだき」が「おでん」に取って代わられつつあると考えられる。

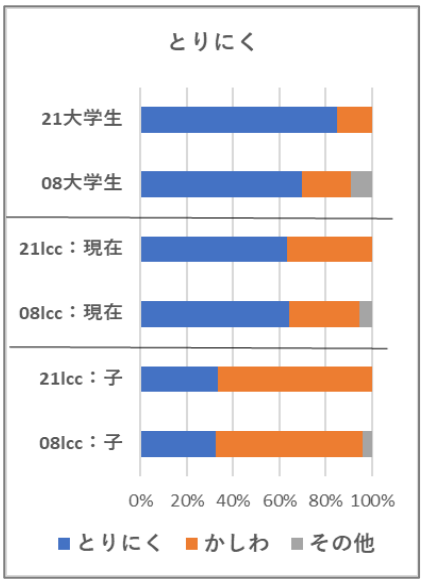
08 と 21 の比較 大学生は 08 年当時には少数ながら「かんとだき」の回答があったが 21 年には 0 となり「おでん」への変化が進んでいる。



■「かしわ」から「とりにく」へ

「かしわ」と言うか、「とりにく」と言うかである。Icc の子ども時代は、08 年・21 年ともに「かしわ」を使うとしたのが 70%程度であったが、大人の現在では 40%前後に減少した。大学生では約 70～80%が「とりにく」を使用している。料理店の店名や献立名などで「かしわ」が使い続けられる可能性はあるだろうが、我々が日常生活の中でどれほど使うかと考えると、「とりにく」への変化を止めるのは難しいのではないか。

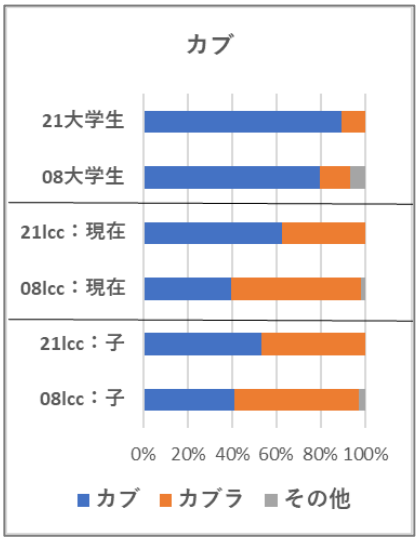
08 と 21 の比較 Icc は大きな変化は認められないが、大学生の「とりにく」使用率は 08 年よりも高くなり変化が進んでいる。



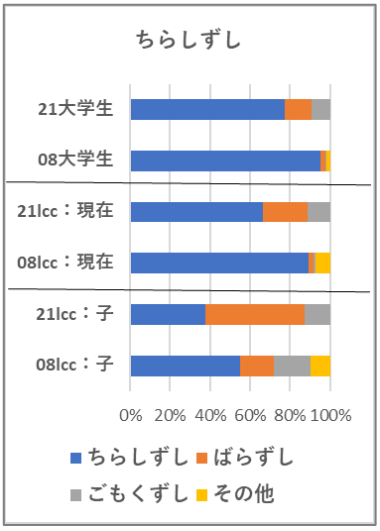
■「カブラ」から「カブ」へ

「カブ」は、古代語で「頭」のことを「カブ」と呼んだことに由来する。カブの根（丸い塊）の形状が頭に似ているためだ。「カブラ」の「ラ」は接尾辞で、「そのもの」という意味を添えている。Icc の子ども時代から現在への変化を見ると、08 年は変化がほぼないが、21 年は「カブラ」から「カブ」への変化が見て取れる。大学生は 80～90%が「カブ」である。「カブラ」もそう遠くないうちに「カブ」に取って代わられる可能性が高い。

08 と 21 の比較 Icc・大学生ともに 21 年の方が「カブ」が多く、変化が進んでいる。



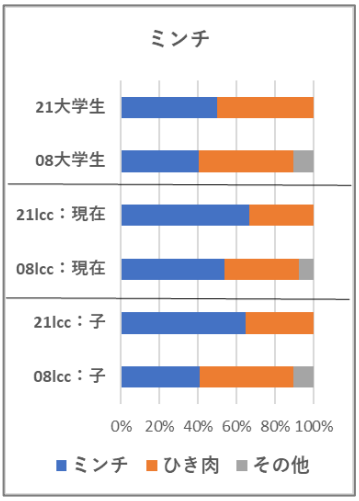
■「ばらずし」「ごもくずし」から「ちらしずし」へ



「ばらずし」は具がバラバラに散らばっている様子から、また、「ちらしずし」もすし飯の上に具が散らされている様子を指したものである。「ごもくずし」の「ごもく（五目）」は、これもいろいろな具という意味で、いずれも小さく切った具がすし飯に乗っていたり、混ぜられたりしているものである。lcc の変化を見てみると、子どもの時よりも「ばらずし」の使用が減り、「ちらしずし」が増えている。「08 現在」では 90%近くが「ちらしずし」を使用している。また、大学生も「ちらしずし」の使用が圧倒的に多い。「ごもくずし」は全体的に使用が少ない。「ばらずし」がすぐに使われなくなるとは考えにくいが、「ちらしずし」への置き換わりは進行中だと言える。

08 と 21 の比較 このように、結果としては「ちらしずし」を使用する人が多い。しかし lcc・大学生ともに 08 年よりも 21 年の方が「ばらずし」を使う人が多い。もしかすると、将来「ばらずし」の復権があるかもしれない。

■「ミンチ」と「ひき肉」はしばらく共存



関西は「ミンチ」と言い、関東では「ひき肉」と呼ばれる。08lcc では、子ども時代より現在の方が「ミンチ」を使う割合が増えている。しかし、21lcc では、子ども時代も現在もほぼ変化がない。また、大学生も 08 年は「ひき肉」がやや多いものの、21 年では「ミンチ」と「ひき肉」の差がない。この結果を見ると、もうしばらくは「ミンチ」と「ひき肉」の共存が続いていくだろうと予想される。

08 と 21 の比較 lcc・大学生ともに 08 年よりも 21 年の方が「ミンチ」を使う割合が高くなっている。今後、共存の状態をしばらく続けながら時間をかけてじわじわと「ミンチ」が増えていくのではないだろうか。

以上、おもに関西で使われる食べ物に関する言葉について、アンケート結果をもとに、今後の予想を行ってみた。2008 年当時よりも標準語化が進んだ言葉もいくつかある。人間の生活に深くかかわる「食」の場から、関西の言葉が消えていくかもしれないということだ。

参考文献
真田真治 監修（2018）『関西弁事典』執筆者：松丸真大「食と関西弁」p.297.
堀井令以知 編（1995）『大阪ことば辞典』東京堂出版.
吉田金彦 編（1996）『衣食住語源辞典』東京堂出版.

作成にあたりご助言をいただいた佐竹秀雄先生、調査にご協力くださった LC 倶楽部会員・学生の皆さんにお礼を申し上げます。

担当：岸本 千秋　　作業協力者：向井 弥生